

茨城キリスト教大学附属認定こども園

【集計／せいじ園】

年度別自己点検、自己評価表（2014～2016）

【凡例】

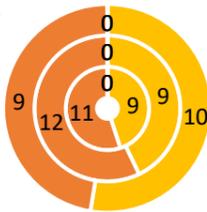
- よくできている
- まあまあできている
- あまりできていない
- まったくできていない

数字(人)

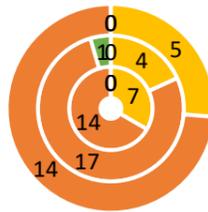
2014年
2015年
2016年

[1] 保育のあり方、子どもへのかかわり方

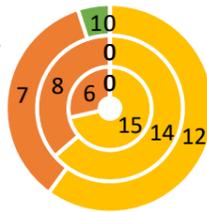
朝の登園時は特に視診を忘れずに、子どもの体調が悪くないかを確認している。



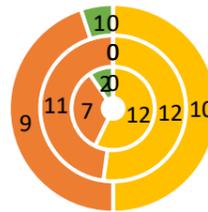
子どもの話をよく聞き思いやサイン、心の動きを推察し、基本的欲求が十分満たされるよう配慮している。



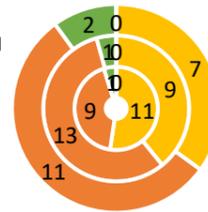
子どもとの温かなやり取りやスキンシップを常に心がけている。



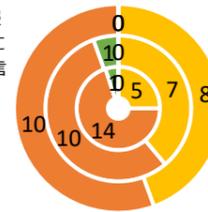
子どもの話をよく聞くようにしている。



子どもをほめたり励ましたりすることで、子ども自身が自信を持っていくようなかかわりをしている。

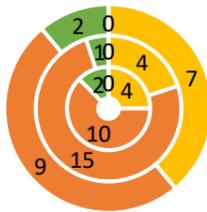


クラスに関係なく、情報を共有しながらその場にあった保育者が適切な言葉かけや対応をしている。

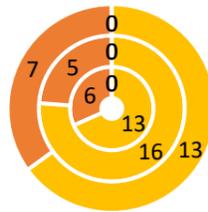


[2] 保育者としての資質や良識

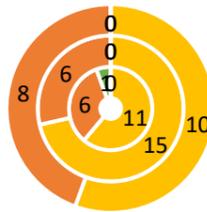
保護者に対し、子どものことや保育のことをわかり易く話すことができ、保護者との信頼関係づくりに努めている。



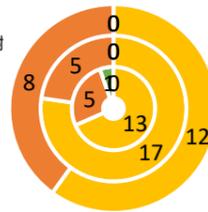
保育者の人間性が子どもたちに影響を与えることを自覚している。



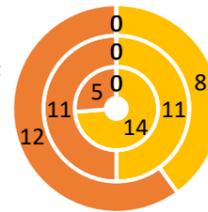
子どもや保護者との対応には、平等を欠かないようにしている。



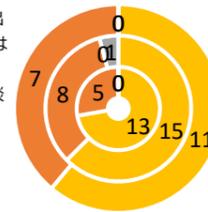
朝と帰りのあいさつは親しみを込めて行い、感謝の気持ちを言葉などで表している。



服装、髪型、身だしなみなど安全性に配慮し、清潔感のあるものを心がけている。

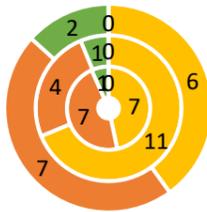


子どものこと、クラスの出来事などで重要なことは園長（副園長）や主任に報告、連絡、相談している。

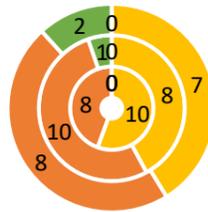


[3] 保護者への対応・守秘義務

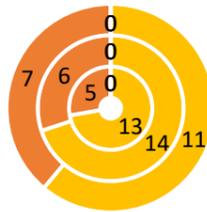
子どもの様子は、直接保護者と話をしたり、電話、連絡帳などを使って伝え合っている。



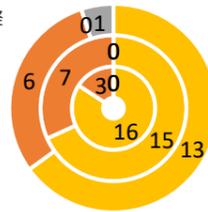
子育てや就労を支えるために、保護者の気持ちに配慮しながら接するように努めている。



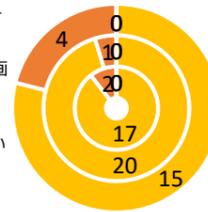
保護者からの様々な、要望については安易に受けたり、断ったりしないで、園長（副園長）や主任等に報告や相談をしている。



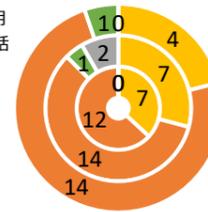
保育者や園の批判を軽はずみにしたり、プライバシーについて他へ漏らしていない。



保護者・園児等に対する情報、および園の運営上の情報、保育計画等の情報については園長（副園長）の許可なく使用、開示、漏えいしていない。

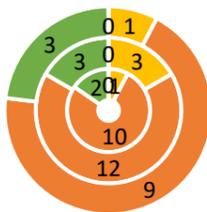


丁寧な言葉と敬語を用いて話しかけ、相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている。

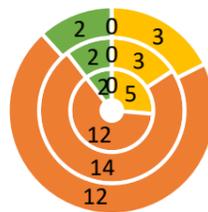


[4] 保育者の専門性に関する研修への意欲・態度

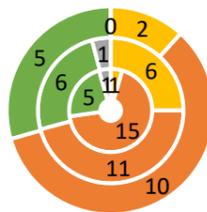
研修会や研究会にはねらいを持って参加し、事前にその内容を確認したり自分なりの考えをまとめている。



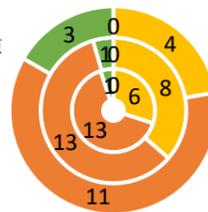
自分の保育についてはねらいを持って計画と反省を行うとともに、保育のあり方や悩みについて他の保育者や主任、園長（副園長）と話し合っている。



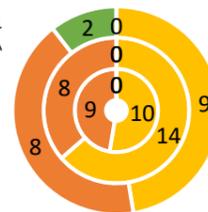
園庭や砂場、通路、隠れ場所などの位置や広さなどがどのような教育的な意味を持つか理解し、保育に生かしている。



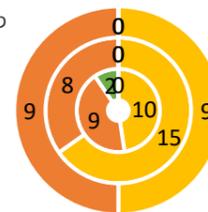
子どもを取り巻く様々な状況について、背景・原因・実態について興味関心を持っている。



アレルギー・自立の遅れなどについて興味・関心を持っている。



子どもの安心・安全につながる危機管理について関心を持っている。



2016年度自己点検、評価を実施してみた

(全体を通しての感想)

- ・自己点検を行い、改めて自分の保育を見直したり、振り返ることができたように思います。保育を振り返ってみて、子どもの小さなつぶやきにもしっかり耳を傾けているが、忙しさから「待ってて」という言葉が増えていないか、不安もあるので、今後気をつけていきたいと思います。また、保育者として、専門的な部分をもっとしっかり身につけていけるように努めていきたいと思います。
- ・子ども、保護者に対しての話し方や、聞き方をわかりやすく丁寧な言葉遣いに心がけなければいけないと改めて感じることができました。また、活動の流れをしっかりと考え、事前準備をきちんと行っていけるよう努めていきたいと考えました。
- ・保育者の人間性が子ども達に大きな影響を与えることをより一層感じるようになりました。理解はしているが、人間性を深めるために、専門的な知識の向上を目指したり、読書や、社会情勢に関心を持つ、子どもを取り巻く環境を理解しようとする姿勢など、日々の中で積極的に学ぼうとすることに努力していかなければと反省することができました。
- ・最近また、大きな地震があり、訓練はしているものの、子ども一人ひとりの命を預かることの重みを改めて感じました。避難用具の準備、確認も定期的に行いながら今後も引き続き備えていきたいと思います。また、体調を崩しやすい時期であり、特に嘔吐処理に関して、適切な対応ができるよう全体でも確認しながら進めていきたいです。
- ・支援を必要としている子どもに対応しながら担任の先生方とはまた違った目線から保育をしています。嫌なことや辛いことがあったときに一息つける場として、おばあちゃんのような存在として、その後担任や友達のところへいければと考えています。日々大切にしながら、努力したいと思っています。

<せいじ園>